

日本蚕糸学会第 79 回大会公開シンポジウムで講演

演題：ミツバチ生産物の予防医学・健康分野への利用

演者：立藤智基（山田養蜂場みつばち健康科学研究所 研究室 室長）（参加費無料）

日時：平成 21 年 3 月 21 日（土）15：30～17：30（当社発表は 16：00～16：25）

会場：東京農工大学農学部 講堂（東京都府中市幸町 3 丁目 5 番 8 号）

株式会社山田養蜂場は、現会長の山田政雄が独自に始めたローヤルゼリー研究を発端とし、予防医学^{注1}の観点からローヤルゼリー^{注2}を始めとするミツバチ生産物の研究および天然素材の有効性を追求する研究を続けております。また、創業 60 周年を迎えた 2008 年からは「山田養蜂場 みつばち研究助成基金」を設立し、若手研究者によるミツバチ研究や予防医学的研究を支援しています。

この度、これまでの世界のミツバチ生産物の研究を改めて予防医学的な観点から考察すべく、「ミツバチ生産物の予防医学・健康分野への利用」について、講演を行いますので、お知らせ致します。

御多用のこととは存じますが、是非とも御出席賜りますようお願い申し上げます。

敬具

【発表内容概要】

昨今、高齢化社会を迎えた日本では、健康に対する考え方が見直され、予防医学的な健康観が重要視されています。例えば、健康増進法の施行（2002 年）や健康保険法の改正によるメタボリック検診の義務化（2008 年）等、健康寿命の延伸や生活の質の向上を実現するための環境整備や法的基盤が、着々と整いつつあります。この予防医学的な考え方は、中医学^{注3}やアーユルヴェーダ^{注4}といった伝統医学においても体系化されています。

一方、ローヤルゼリー、プロポリス^{注5}、蜂蜜などのミツバチ生産物は中国漢方では養命薬（生命を養う目的の薬）として使用され、西洋においては、アピセラピー^{注6}として医療的に利用されてきました。本講演では、古くから健康に寄与する安全な素材として食されてきたミツバチ生産物と予防医学の関連について、科学的データを踏まえて検証致します。

本講演以外にもミツバチ研究の先端技術から事業における発展性まで、ミツバチ分野のさらなる可能性に関する幅広く興味深い講演が行われます。

日本蚕糸学会[※]第 79 回大会公開シンポジウム プログラム

1. 有用昆虫としてのミツバチの特徴と私たちの生活への貢献を概観する
佐々木 正巳（玉川大学農学部 教授）
2. ミツバチ生産物の予防医学・健康分野への利用
立藤 智基（山田養蜂場本社 研究開発部）
3. ミツバチのポリネーション事業展開
柿野 衛（アピ株式会社 長良川リサーチセンター）
4. ミツバチゲノムと遺伝子組み換え技術
木村 澄（農研機構畜草研家畜育種増殖研究チーム 主任研究員）
5. 総合討論：蚕糸研究とミツバチ研究の接点
司会：鈴木 幸一（岩手大学農学部 教授）

※日本蚕糸学会は、これまでに蚕糸科学分野で蓄積してきた学術的成果を基盤とし、昆虫機能研究および昆虫利用研究全般に研究分野を拡大して活動を行っています。日本蚕糸学会第 79 回大会では、カイコ同様に古くから人と関わりをもつ有益昆虫であるミツバチに焦点をあて、「ミツバチの利用拡大と産業の現状」というテーマで公開シンポジウムが開催されます。

本件に関するお問い合わせ

株式会社山田養蜂場 文化広報室 寺田、畑
〒708-0393 岡山県苫田郡鏡野町市場 194
TEL:0868-54-1906（月～金 9:00～17:30、土日祝除く）
FAX:0868-54-3346 <http://www.3838.com>

《演者紹介》

立藤智基（たてふじともき）研究室長 博士(学術)のプロフィール

株式会社山田養蜂場本社 研究開発部 副部長
山田養蜂場みつばち健康科学研究所 研究室長
武庫川女子大学国際健康開発研究所 客員准教授
免疫分析研究センター 取締役執行役員



《用語解説》

注1) 予防医学

疾病の発生・経過・分布・消長とそれに影響をおよぼす原因を研究し、疾病の予防を行うこと、ならびに病気になりにくい心身の健康増進を図ることを目的とした学問。狭義には、「病気になってしまったからそれを治すことより、病気になりにくい心身を作る。病気を予防し、健康を維持する」という考え方に基づく医学といえる。

注2) ローヤルゼリー

ミツバチが花粉を食べて作る乳白色の物質で、女王蜂が一生食べ続ける特別食。女王蜂は毎日 1,500~2,000 個もの卵を産卵するとされているが、その驚異的なエネルギーの源がローヤルゼリーであるといわれている。必須アミノ酸全 9 種を含む 20 種類のアミノ酸のほか、ビタミン、ミネラルなど有用成分をバランスよく含んでいる。これまで、更年期周辺の不定愁訴の改善等様々な研究報告がなされており、人気のある健康食品の一つ。

注3) 中医学

体全体のバランスを考えて不調を整え、個々人の生活や体調、食事、病歴などを総合的に捉えて立て直す手立てを考える医学。また、“未病”の状態 で病気を予防することに重点をおく学問でもある。

注4) アーユルヴェーダ

インド亜大陸で 5,000 年以上も前から、病気の治療や健康の保護のために用いられてきた学問。

注5) プロポリス

蜂ヤニとも呼ばれ、ミツバチが植物から集めた樹脂や新芽、花粉などを唾液や蜜ろうと混合して作る。ミツバチは細菌などから巣を守り、アリなどの天敵や雨水の侵入を防ぐためにプロポリスで巣箱の隙間を埋めて用いる。中でもブラジル産プロポリスはアルテピリンCを始めとした、桂皮酸誘導体、フラボノイド等の有用成分を含み、非常に人気のある健康食品の一つ。

注6) アピセラピー

アピセラピーは、ミツバチ療法とも言われる。ミツバチの生産物を利用した治療法または健康法で、古くから人や動物の治療に利用された記録があり、とても歴史がある治療法である。

